

上下分離方式は長井線を救うか

12月15日に委員会が開催され、フラワー長井線の経営改善計画等の説明を受けた。

山形鉄道(株)の経営改善計画策定にむけて

きびしい現状

◆利用者はピーク時の144万人(平成2年の43%の62万人(平成26年)まで減少。観光客や高校生の利用者も減少傾向。

上下分離方式導入が条件

◆国の補助率が拡大する鉄道事業再構築事業を導入。事業者(山形鉄道)は、運行部分(上)を負担。沿線市町と県は、施設(上)の維持・補修に対して補助する仕組みの導入が条件となる。

収入増の対策

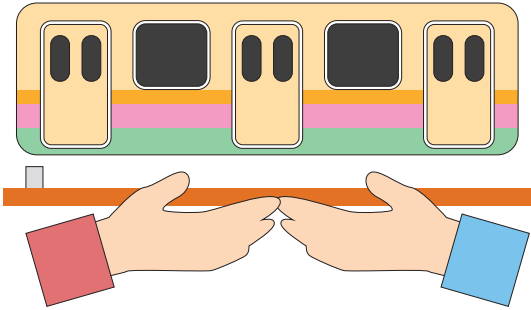
◆LINEスタンプの販売や関連商品のネット販売の強化。
◆ふるさと納税の返礼品にグッズを同梱。
◆学校行事に合わせたダイヤ改正やJR線との接続性の向上など。

質疑

経営の今後の見通しは

委員 改善計画だけでは十分とはいえない。今後の見通しは。

当局 沿線市町の温度差はあるが、議論の上、上下分離の方向性を示



した。国・県の支援を増やし経営するしかない。

保育園はどう変わる

平成28年4月から、あらと・よつばの両保育園が、教育と保育、両方の特徴をあわせ持つ、幼保連携型「認定こども園」になるとの説明を受けた。

これは平成27年4月から始まった子ども・子育て支援新制度により、県の基準に基づき、県からの認可を受けて、社会福祉法人白鷹会が行うもの。

質疑

メリットは

委員 こども園に移行するメリットは。

当局 しっかり定義づけられた教育・保育が受けられる。

保育園の選択は

委員 町内どの保育園にも入園できるのか。

当局 希望に応じて利用できるが、場合により第二希望となる。



おじいちゃんといっしょ (あらと保育園)

保育園による格差は

委員 こども園は教育の時間がある。希望の園に入れられない場合があるとすれば問題では。

当局 現在も保育園とはいえ造形や英会話などをしている。町内の園は同じ水準の保育をしている。

その他

- 過疎計画・男女共同参画計画等の策定
 - 地域おこし協力隊
 - 青少年国際交流事業実施状況
 - 介護老人保健施設の整備
 - 「婚活・結婚に関するアンケート」の結果
 - 公立保育所運営検討委員会の中間報告
 - 斎場の改修工事
- について説明があった。